

# ”グレーゾーン“と伝えない ほうがいいと感じる理由

2023年5月18日

第36回発達を見守る会

発達クリニックCan 遠藤尚宏

# “グレーゾーン”という表現への私見

“グレーゾーン”：多動や集団行動の苦手さ、発達の遅れなどに関して、気になる点があるが、特別な支援を必要とするほどではなく、様子見でいいと考えられる状態（として使われるようだ）

- “グレーゾーン” は医学的な概念ではない
- “グレーゾーン” とは無色なのか？
- “グレーゾーン” でもやってあげたほうが良いことがある

# 知的能力（発達） 症知的障害

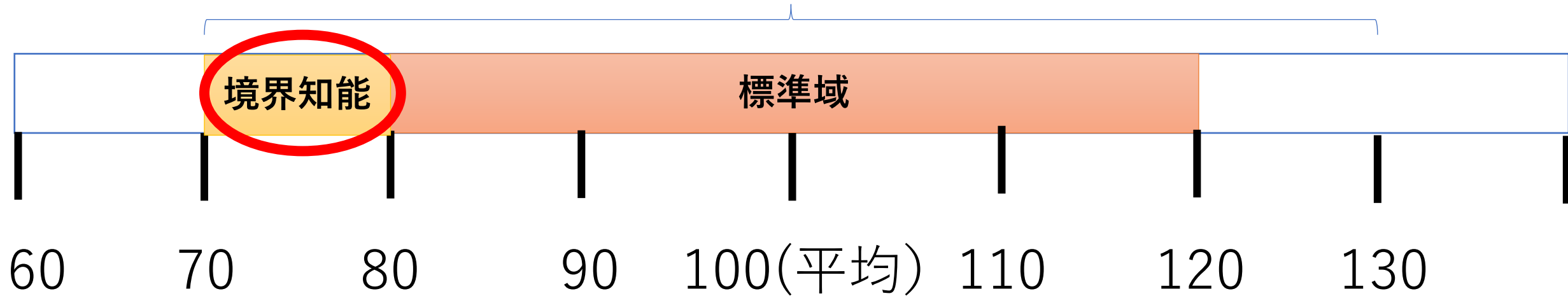
## 臨床的アセスメント と

知能検査等で確認される，推理・問題解決・計画・抽象的思考・判断・経験からの学習といった知的機能の障害

（おおむねIQ70未満）

# 参考：知能指数IQ、発達指数DQの見方

95%の人があてはまる



- 検査結果の数値は幅を持ってみる
- 検査の精度的には8～10歳ころに数値が安定する
- 15歳での知能が一つの到達点
- ASDでは、3～6歳ころに急激に伸びることがある。さらに、ASDは20歳近くまで平均でIQ 8前後伸びるという追跡調査もある。
- IQは一つの物差しにすぎない。一喜一憂する必要はない

# Piagetが提唱する発達段階

IQ 20未満  
療育手帳A1

最重度知的障害

常時見守り 全介助

反応に興味をひかれ、また繰り返す（循環反応）

見えなくなってもまだ存在しているとわかる（対象の永続性）

真似をする（模倣行動）

IQ 21～35 A2

重度：常時見守り半介助

主観的（自己中心性）、過集中（中心性）

後半から理性的な考え方を始める（直観的思考期）

「今」しかない』

IQ 36～50 B1

中等度：常時見守り軽作業

論理的思考の開始

具体的（視覚的）な情報を要する

IQ 51～69 B2

軽度：てきぎ見守り助言

就労支援～障害者雇用

形式的操作期  
（11歳～）

抽象的な思考の獲得

（答えがでないことを認められるようになってくる）

# 境界知能のこどもに見られる傾向

- 何かをするのに時間がかかる
- 何かをするのに平均以上の労力を要する
- 理解の程度が低め

物事の主導権をとれない  
流されやすい

- 周囲に圧倒されて落ち込んでいく
- 当たり散らす
- 努力しなくて済む方向に行く

- **様々な支援制度のはざまにある**

# 知的能力症 グレーゾーン 対応

- 発達段階を意識した関わり
  - 年齢相応の経験を提供する
  - 年齢相応の振る舞いを求める
  - 意欲や勤勉性を失わせないようにする
- 
- 道はずれないように支える
  - 光の当たる道が心地よいと感じてもらう
  - 誰もが生活しやすい社会の構築

# 限局性学習症（SLD、LD）の定義

## 医療現場（DSM-5）

- 読みの困難
- 書字の困難
- 算数（計算）の困難
- 文章理解の困難

知的障害、視覚障害、聴覚障害、心理社会的困難、教育的指導の不十分さでは説明できない。



# 学習症とは単に勉強ができないことではない！

1. 限定した学習面での困難
2. 成績と知的レベルの乖離（知的障害はない）
3. 本人の努力不足や環境面での問題ではない  
= 脳機能の問題である

※知的障害、境界知能に加えて読み書きや計算だけが苦手、という特性が加わることもある（学習障害とは言えないが）

# 学習症

- 就学の時点で読み書きができていない必要はない
- ただし、年長になった時点で、文字や数字の認識がない、興味が薄い場合は注意

全く読めないわけではない

= 読めている子でも支援が必要な場合がある

- 就学後に早めに気づいて、本人の特徴に合わせて個別にやる機会が必要
- **LD 2～5%はいると言われているが、支援体制が不足**
- **支援のノウハウが不足**
- **知的に問題ないが、学力が低いと、将来的に進学が困難**

# 対応 学習の目的・目標を考える

- 国語算数以外の教科でも学習意欲が低下し、自分に対する自信を失ってしまうことを避ける。
- 読字、書字、計算が不得手なせいで、年齢相応の知識、経験を得る機会を失わないよう、環境を整える。
- 学習症でも、偉大なことを成し遂げた人は大勢いる  
(例：スティーブンスピルバーグなど)。
- 読む場所を限定する工夫、ルビ振り、プリント配布、読み上げ、タイピング、音声入力など、困難を補う支援を！

# 注意欠陥多動症 (ADHD)

落ち着きのなさ

衝動性の高さ

不注意

集中力が続かない

上記のため、社会生活に支障をきたしている  
100人に5人もいる

# ADHD 特徴



活発  
明るい・盛り上げ役

✦ 熱心

チャレンジ精神旺盛

マイペース

のんびり屋さん・癒し系 (不注意優勢型)



試行錯誤して進んでいく

こなせる仕事量が多い

**社会をリードするエネルギーを持っている**

# ADHD 特徴

- 多動は年齢とともに落ち着く
- 衝動性は落ち着くことが多い
- 不注意は変わりづらく、日常的な工夫の継続、よい習慣の定着が必要
- **時間感覚の弱さ**も変わりづらい
- **怒られ続けることによる二次障害のほ  
うが問題**

# ADHD 対応

- 環境設定、声かけのしかた、対応の一貫性などが重要
- 小学生以降は薬物療法も有効、しかし・・・
- 「薬飲ませたらどうですか」「病院に行って薬もらってきて」は禁句！
- 医療機関が相談に乗ってくれることを伝えてもらえるとありがたいが、教育者から薬の話は持ち出さないほうがよいと思う。親切で言ったつもりでも、さじを投げた感が強く出るよう。
- ADHDと正確に診断することは難しいし、「多動」で医療機関に来る場合、純粹なADHDも多くはない印象

# 自閉スペクトラム症（広汎性発達障害）

## ① 社会性の問題

言葉の遅れ

説明の理解が弱い

会話が苦手、かみあわない

他者と適切な距離がとれない

相手の気持ちや場の雰囲気を読み取ることが苦手 など

## ② 興味・想像力の偏り 感覚の偏り

興味の偏り

こだわり

切り替えの難しさ

音への過敏さ

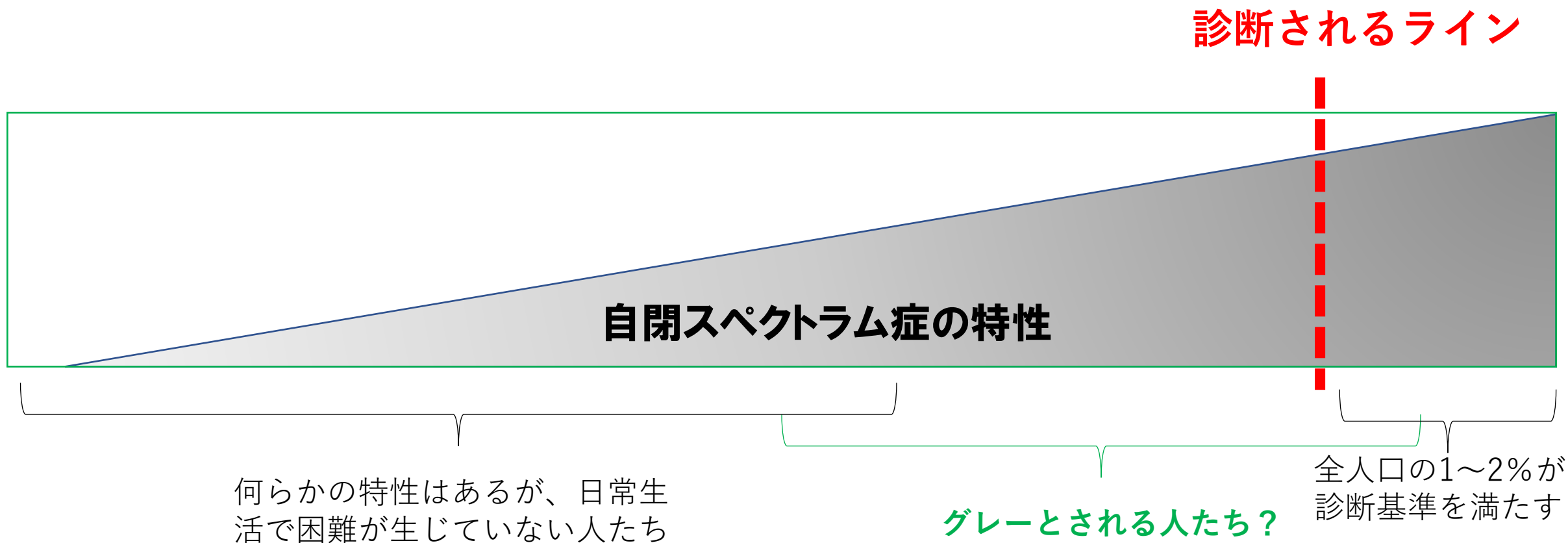
極端な偏食

などなど

## ③ 上記に基づく社会生活での困難



# 自閉スペクトラム症のグレー？



- ASDの診断基準を受けると気づかれていない、まだ診断を受けていない
- 特性は明確だが、社会適応ができています
- 特性は強くないが、日常生活に困難を生じる時がある、生きづらさがある

# 特性は強くないが、場合によって日常生活に困難を生じる

- 社会性が強く求められる場面
- 本人のこだわりや信念に反するとき
- 理解が難しい、あるいは不得意なことを要求されるとき  
= 「適当」「適切」が難しい

# 特性は強くないが、場合によって日常生活に困難を生じる

- ASDがない人たちと発達面での差が生まれる時

定型発達では・・・

4歳 相手の立場に立って考えられるようになる

5, 6歳 かんしゃくが落ち着いて、現実的な行動が増える

8歳 時間概念が育つ、段取りがよくなる

9～10歳 空気が読める 要領がよくなる

11歳～ 抽象的なことがわかる

# 就学前後

定型発達では・・・

4歳 相手の立場に立って考えられるようになる

5, 6歳 かんしゃくが落ち着いて、現実的な行動が増える

ASD特性があると：

上記が苦手であるため、集団行動や対人面に支障が出る

就学すると、新しい環境になじむのに時間がかかる、言葉の意味理解が苦手勉強がわかりづらい、興味のない課題をやりたがらない、などの形で支障が出てくる

# 小学校3, 4年生以降

定型発達では・・・ 9～10歳 空気が読める 要領がよくなる

ASD特性があると、

- 説明されたことの意味や要点がわかりづらい
  - 場の雰囲気を読み取りづらい（読めないわけではない）
  - 相手の気持ちや意図を読み取りづらい（読めないわけではない）
- まわりは苦も無くできている（ようにみえる）のに、自分は「うまくできない」、「うまくできているかわからない」と不安になる
- どれくらいが「適当」「適切」がわからないので、がんばりすぎてしまっって疲れてしまう＝“過剰適応”
- まわりから見ると小さいことで大きく傷つく＝“繊細”、“敏感”

HSC  
(HSP) ?

**生きづらさ、行き渋り、不登校、社交不安につながる**

# 自閉スペクトラム症（？）の対応

- 特性に合った保育、教育
- **療育**は基本的に、診断が確定していなくても受けられる
- 保護者、保育者、教員が専門的な助言、相談を受けられる場所や相手を確保する
- 支援者連携

# まとめ

- “グレーゾーン” は医学的な概念ではない
- “グレーゾーン” とは無色ではない
- “グレーゾーン” でもやったほうが良いことがある

支援をしないなら、グレーと言わないほうが良い？

気になるなら、フォローする、どのような条件のときに相談事業や医療機関に相談すべきか明確に伝える

ただし、親がこちらの話や意図を十分理解できていない、こどもが相談したからない可能性は念頭に置いたほうがよい

# 発達を見守る会

**ホームページ** <http://www.hattatsu-mimamoru.com/>  
過去の講義資料が載っています